




プロフィール

作品の名前	いろえもりあげ まつ もん さら 色絵盛上 松オウム文 皿	うらがわ 裏側についているマーク
作られた年代	1891年~1921年(今から100~130年くらい前)	
作られた場所	日本	
売っていた場所	アメリカ	

直径が30cm以上ある大きな「かざり皿」です。この絵がらの特ちょうは、“あるチャレンジ”を表しています。



ここで
Question!
クエスチョン

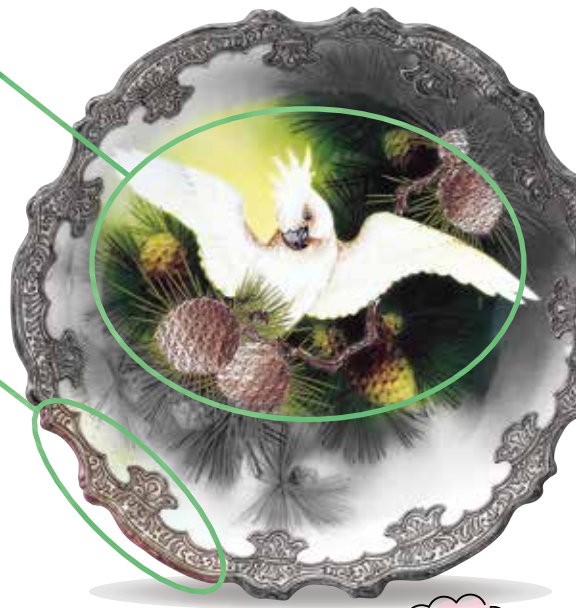
Q.1 植物と動物がえがいてあるね。何と何かな?

Q.2 お皿のフチはどうなっているかな?

このお皿にかくされたなぞは? うらをみてみよう▶

A.1 まつ 松とオウム

えどじだい 江戸時代までの絵では、まつ 松の木に組み合わ
せる鳥といえば「タカ」でした。
しかし、このお皿には外国の鳥である
「オウム」がえがかれています。



A.2 も 盛り上がっている

せいよう 西洋風の模様は、も 盛り上げて表現
されています。

もりあげ ぎほう ※「盛上」技法については、セルフガイドのNo.2 に
くわしく書いてあります。ぜひご覧ください。

この絵は日本風と西洋風が混じっています。

1800年代の後半（江戸時代の終わりころから明治時代にかけて）、
ヨーロッパやアメリカでは日本風のものがとても人気でした。
しかしそれはじょじょに時代おくれになり、1900年代に入るところには、
「アール・ニューヴォー」という美術スタイルが流行します。
森村組では流行に合わせ、絵がらを西洋風（ヨーロッパ風）に
しようと考えました。これは「脱!日本風の絵」を目指すところの
製品なのです。

『アール・
ニューヴォー』は
こんな感じ。



「ちょっと耳よりエピソード③」

絵のふんいきを変えた人

もりむらぐみ 森村組で働いていたおおくらまごべえ 大倉孫兵衛は、1893年（今から130年くらい前）にアメリカのシカゴという都市で
開かれた万国博覧会を見に行きました。そこには、ヨーロッパで作られた、せいよう 西洋風の絵がらの白くてきれいな陶磁器が展示されていました。



おおくら まごべえ
大倉孫兵衛

おおくらまごべえ 大倉孫兵衛は、もりむらぐみ 森村組のとうじき 陶磁器も
このような絵に変えたほうが良いと
思いました。日本の絵付け職人は
これに反対しましたが、一生けん命に
説得して絵のふんいきを変えて
いきました。

下の2枚のお皿を見比べてみよう。



日本風



せいよう
西洋風

「ちょっと耳よりエピソード」は全部で24話あります。すべて集めてならべかえると、ひとつのお話になります。続きはwebでも読むことができます。